



発行所
年2回発行

発行人/事務局長 魚瀬
発行日/平成26年1月1日



特定医療法人グループ・プロジェクト研究会

藤沢御所見病院

〒252-0825 神奈川県藤沢市瀬郷580番地
TEL0466-48-6501 FAX0466-48-5490

http://www.goshomi.jp

病院の理念

地域の人々が、健康で明るく暮せるように、
専門職組織による、安全で良質な保健、
医療、介護サービスを提供する。

明けましておめでとうございます

副理事長 安田 弘文

今年も、新しい年を迎えました。
毎年元日の朝の空を見て、これまでの師走の朝とは違った明るい、暖かな日差しが特別なように思えるのは、私一人の感覚ではないように思いますが、みなさんはいかがお感じになりましたか。

理科年表を見れば、日の出の時間は元日を過ぎて遅くなり、一月の7・8日ごろに最も遅くなるのが分かります。つまり科学的には、師走の朝の日差しと元日の朝の日差しには1、2分の違いしかないはずなのです。しかし元日の朝の日差しに、特別なものを感じるのは、今年が良い年であってほしい、平穏な年であってほしいという人々の願望の表れではないでしょうか。

気象の変化の激しさ、災害の激甚化、交通機関の管理のずさんさ、有名レストランの偽装表示、昨年は嫌なことが数え切れずニュースをにぎわしました。
今年はこのことのない静かな年であってほしいものです。

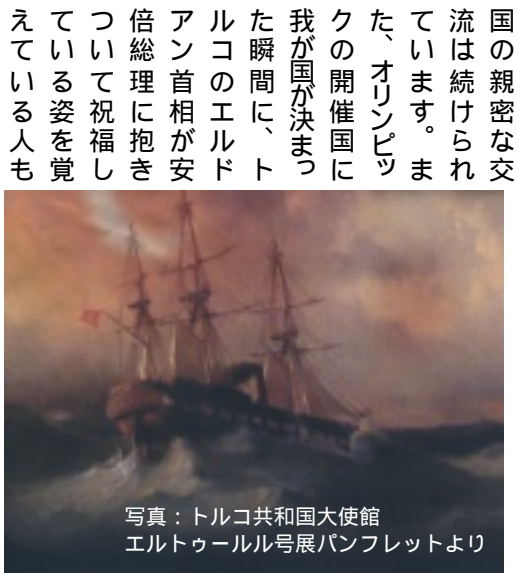
さて、昨年の7月から、トルコ人医師のペデル先生が、私たちの法人の仲間となり、耳鼻咽喉科のクリニックを開業しました。トルコの人との付き合いは、私も初めてでありましたが、先生の穏やかな、優しい笑顔にすっかりトルコのとりになっていました。
トルコの人たちと言えば、日本人をとて大切に扱って下さっていることや、そ

のもととなった出来事が「エルトゥールル号の遭難事件」であることは知っていましたが、1890年に起こった事件を、120年後の現在まで、トルコ共和国国民のすべての人たちが知っており、小学校の教科書からその教育が始まっていることを知り、驚きと感謝の念を禁じえません。

この遭難事件は、明治天皇への特使として帝国から派遣されたオスマン提督をはじめとする609名を乗せたオスマン帝国の軍艦、「エルトゥールル号」が、その帰路、和歌山県串本町近海で、台風に遭遇し岩礁に激突して沈没した出来事です。波にのまれながら何とか助かった69名を地元の大島の人たちが、必死の救助にあたり、寒村に残されていた非常用の食料まで提供して彼らを助けました。

このニュースが広がる日本全国から義捐金が集まり、当時のお金で、なんと2700万円という膨大な金額になったそうです。助けられた69名はその後日本海軍の巡洋艦2隻で丁重にトルコまで、送られました。日本の官民挙げての心温まる対応が、トルコの人々の心を打ち、トルコが親日国となったきっかけであるといわれています。

1985年には、イラン・イラク戦争のさなかテヘラン空港に取り残された、日本人250人を、「エルトゥールル号」の恩返しだと、トルコ航空の特別機2機で救助してくれたいことや、トルコ地震の時は我が国から、阪神・淡路大震災、東日本大震災の時にはトルコから、迅速な救援体制が取られており、両



写真：トルコ共和国大使館
エルトゥールル号展パンフレットより

国の親密な交流は続けられています。また、オリンピックの開催国に我が国が決まった瞬間に、トルコのエルドアン首相が安倍総理に抱きついて祝福している姿を覚えている人も多いことでしょう。「親戚が開催国になったのだからうれしい」とあるトルコ人からも聞きま

した。
考えて見れば、人種にこだわりなく困っている人には何とかしてあげよう、持てるものをすべて出しあって助けようと思う、人間本来の優しさが人々の心を打ったのでしょうか。

政策や技術の提供で築き上げる外交手段よりも、「こころのやさしさ」が築き上げた友好関係のほうが、長続きする良い見本ではないかと考えております。

私たちがかわっている医療という領域も、この、「苦しんでいる人を何とかしてあげたい」と云う人間の本性に基づいた職業であるといえます。

今年はずべての人たちに優しい「慈しみ」の心で、接することを目標にしたいと思っています。

言語聴覚士とは

みんなでおしゃべりしながら美味しいご飯を食べる、遠く離れている友人にお手紙を書く、好きな本を読み、お茶を飲みながらゆっくりと一人の時間を過ごす…自分や家族が過ごしているそんなあたりまえの日常が、病気や事故もしくは加齢と共に「あたりまえ」のものではなくなってしまうことがあります。

言語聴覚士とは、病気でお話ができなくなってしまった、食べられなくなってしまった…など脳血管障害や加齢に伴う言語障害、摂食嚥下(えんげ)障害に対してリハビリテーションを行う専門職です。脳の病気のため、現代の医学では病気の前に戻るといことは不可能ですが、リハビリを行うことで機能回復を図り、今ある能力を活かしながら日常生活に戻れるようお手伝いをさせていただきます。

藤沢御所見病院では言語聴覚士1名が摂食嚥下訓練や言語訓練を行っております。

言語訓練はともかく、嚥下訓練と聞いてもピンとこない方も多いのではないのでしょうか？実際、食べるリハビリをしますとお伝えして、「そんなリハビリもあるのか」と驚かれたことは何度となくあります。

簡単にいいますと、嚥下訓練とは誤嚥(ごえん)をしないで安全に食事ができるように評価・訓練・工夫を行うリハビリです。



誤嚥、とはいわゆる「食べたものが気管に入ってしまった」状態を指します。健康であれば咳の力によって気管に入ったものを出すこ



とができますが、嚥下障害になると気管から異物を出すことが出来なくなり、それが肺に到達して炎症を起こし肺炎になります。これを誤嚥性肺炎といいます。最近ではテレビなどでも誤嚥性肺炎が取り上げられることが増えてきているので、耳にした事がある方も多いかと思えます。誤嚥性肺炎は、治癒しても嚥下障害がある限り食事をすることで再発する危険性が高く、再発を繰り返すことによって徐々に体力が低下し、最終的には死に至ることもある病気です。嚥下障害に適切に対処しないことで、元気になるためには口から食べなければならないのに、食べる事が寿命を縮めてしまうという矛盾に陥ります。

出来る限り元気で健やかな人生を送るためにも、食事のときにムセやすい、飲み込みにくい、痰が絡むなどの症状が出たり、誤嚥性肺炎と診断されたことがあるが嚥下に関する専門的な診察を受けたことがないという方は、一度嚥下評価・訓練を行っている病院への診察をお勧めします。当、藤沢御所見病院では外来での嚥下検査を行っておりますので、気になる症状がありましたらお気軽にご相談ください。

検査をご希望の方は

検査日の予約をお取り致しますので、藤沢御所見病院にご連絡を下さい。(0466-48-6501)

言語聴覚士 : 成田 美絵子

7月1日にオープンした『ごしょみ耳鼻咽喉科クリニック』では12月1日から補聴器外来を始めました。

今まで、御所見地区に耳鼻科がなかったので地域の皆様方は不便な思いをされていた事と思えます。アレルギー疾患等で市販の薬を使い我慢をされている方やお困りの方、聞こえづらくなったり周囲の方から「テレビの音が大いね」と言われたら一度受診してみてもいいでしょうか。

診察をしているベデル医師は、とても笑顔が素敵な先生です。スタッフ一同、患者様が安心して診察を受けることができるようにお手伝い致します。受診の際は質問などありましたら気軽に声をお掛け下さい。

これからますます、寒さが厳しくなります。一日の気温差が激しく、空気が乾燥し、体調が悪くなりやすい時期です。お身体に気をつけてお過ごし下さい。

外来看護課長 渡部 夏美



看護部の活動目標

看護部長 古見 田鶴子

病院の中でスタッフの数が一番多い部署は看護部です。そして、一番身近にいるのが患者さま、家族、関係機関の方々等です。したがって、看護・介護スタッフの立ち居振る舞いはこれらの様々な方に大きな影響を与えることになります。入院中の患者さまはもちろん、病院を訪れる家族を含めた方たちは、様々な期待を寄せています。

その期待の一部には、「患者さんの目線に立ってこれている」「清潔感があり、対応が丁寧である」「きちんと説明してくれる」等、我々スタッフに対する患者さま・家族の方々の視点での期待があります。さらに「スタッフ同志でのあいさつや、笑顔での雰囲気がいい」「医師との関係がいい」等、私達が織りなす職場での人間関係のことも大きな期待が寄せられています。日常の家族関係、仕事関係等、その関係性が

安定していることは、患者さまとその家族、そして私たち自身の心の安定につながるとても大切なことなのです。



~中学生の職場体験~

藤沢御所見病院では、数年前から医療に関心のある中学生に対して学校の依頼により「職業体験」を受け入れて来ました。

病院で働いている人と一緒に活動したり、話を聞くことによって職業への関心を高め自分の将来について真剣に考え、これからの職業選択の一助になることが目的です。今年も中学生6名が2日間の体験に来ました。

病院では、医師や看護師以外にもいろいろな職種の職員が働いています。1日目は、医療事務関係・地域連携室・透析室・機能訓練室・薬局・検査室・栄養管理室などで働いている職員から話をききました。日頃、耳慣れない専門職の名前に「えーそんな資格や仕事があるんだ」とお驚いたり薬局では薬が処方されたものが器械で一包ずつ仕分けする工程を体験しました。

2日目は「看護体験」です。指導者のもとで説明を聞いた後、一緒にシーツ交換や車イス乗車体験。又聴診器を用いてペアを組んで血圧測定も体験しました。

体験を終えた生徒からは「病院は医師や看護師だけ働いているのではない。いろいろな職種の人が働いていることがわかった」「今まであまり興味がなかったけどこの2日間で医療に関連した仕事につきたい」「人のために働いている看護師さん



病院内の人間関係は、訪れる患者さま、家族の方々に大きな影響を与えるものと思っています。

そこで大きな鍵として存在するのが、「良好なコミュニケーション」です。

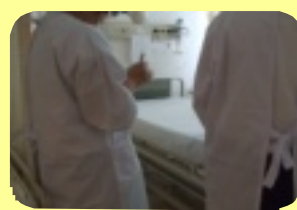
私達は自分の伝えたいことを伝えることで満足しがちで、相手がどのように理解したのかの確認をおろそかにしていませんか。物事を伝える前に、まず目の前の相手が「今どのような思いでいるのか、何が心配なのか何に不安を抱いているのか、理解できているのか…」等を察し、気持ちを受け止める心の余裕を持って関わりたいものです。受け止める余裕が、相手の安心そしてお互いの理解につながっていくのではないのでしょうか。日々の自分自身を振り返り、スタッフが明るい笑顔で、楽しく仕事を続けていけるよう、円滑なコミュニケーションを維持するための努力をしていきたいと思えます。



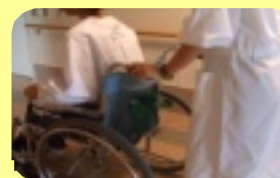
がカッコいいなと思った」など嬉しい感想も聞かれました。2日間の体験が職業を選択するときの一助になればと思います。

看護課長・教育担当 鈴木 富美子

シーツ交換



車イス乗車体験



血圧測定



ざる菊観賞バスツアー



11月10日(日)に御所見地区郷土づくり推進会議地域活性化部会による「ざる菊観賞バスツアー」が開催されました。

打戻会場・藤沢御所見病院会場・宮原会場の3か所のざる菊を栽培している会場をシャトルバスを使って、巡りました。

当院では、地域活性化部会長様のご指導を受け、ざる菊のポット育成から定植～日常育成管理～摘心～育成管理と一つの流れを学び、5月からざる菊栽培に取り組んできました。夏の猛暑や、秋の台風も乗り切り、職員が心をこめて育てて、140株のざる菊が見事に花を咲かせました。各会場では、甘酒を配ったり、スタッフの農家で作った野菜をお分けする催しもありました。

当日は雨が予想されていましたが、強風だったものの、雨が降ることなく、たくさんの方にご参加いただき、ツアーを楽しんでいただけたようでした。御所見地区では、3か所だけでなく、小学校や施設、個人宅等でもざる菊

栽培をしており、とてもにぎやかです。ざる菊の花ことばは「高貴・高潔・誠実」だそうです。花言葉のような地域になりますように...

今回の「ざる菊観賞バスツアー」企画を通して、地域の方々との繋がりやぬくもりを感じました。各々に地域を良くしよう、盛り上げようという気持ちがあったからこそ、今回の企画が成功したのだと思います。来年も素晴らしいざる菊を咲かせられるよう、そして皆様に喜んでいただけるように、地域の方々と一緒に、職員一同取り組んで参りたいと思います。

ざる菊ってなに？

小菊が重なりあい、まるでざるを伏せたような形をつくることから「ざる菊」といいます。

アメリカで改良された菊で、別名「クッションマム」とも言われています。白・黄色・赤・ピンクと色とりどりの花が咲きます。

地域連携室 福永 久美子



腸内細菌を正常に

私たちの腸内にはたくさんの細菌が住みついていて、その構成は乳酸菌やビフィズス菌といった有用菌、腸内腐敗をおこす有害菌(黄色ブドウ球菌、ウエルシュ菌など)、そして日和見菌となっています。有用菌よりも有害菌が優勢になると腸内環境は中性から弱アルカリ性になり腸粘膜のバリア機能や免疫力が低下し、様々な疾患にかかりやすくなってしまいます。腸内細菌のバランスを変動させてしまう要因としては特に毎日の食事の影響が大きいといえるでしょう。高たんぱく質・高脂肪の肉食に偏らないこと、食物繊維(野菜や海藻)を十分に摂取し、さらに乳酸菌やビフィズス菌を含んだ乳製品をとり入れるなどの心がけが大切です。

乳酸菌を多く含む食品として有名なヨーグルトは、乳製品の中でも脂肪の含有量が少ないため高脂肪食を防げます。1日1回ヨーグルトを取り入れてみるのはいかがでしょうか。そこで今回は少しアレンジして同じ乳酸菌の多い味噌と合わせたヨーグルトソースをご紹介します。



ヨーグルト	1/2カップ
味噌	大さじ1と1/2
オリーブオイル	小さじ2
レモン汁(または酢)	小さじ2
塩・こしょう	

白身魚や鮭・鶏肉などにかけて、温野菜や生野菜のドレッシングとして使えます。

管理栄養士 牧嶋 由希子